

## 大学の世界展開力強化事業（平成27年度採択）事後評価結果

大学名	筑波大学
整理番号	L-2
事業名	持続的な社会の安全・安心に貢献するトランスパシフィック協働人材育成プログラム

### ◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価	<p>S</p> <p>事業計画を上回る成果をあげており、事業目的は十分に実現された。</p>
コメント	

本プログラムは、中南米研究の実績を有する貴学において、我が国と中南米諸国の架け橋となるとともに、地球規模課題の解決に向けて広く社会の安定に貢献しうるトランスパシフィック協働人材を育成することを目指して実施したものである。

プログラム展開においては、これまでの補助事業の成果を有効利用して周到な準備のもとに着実に実施され、事業計画を上回る成果をあげている。プログラム開始から年1回、参加大学持ち回りで開催された共同プログラム運営委員会において、プログラムの進捗状況の確認及び短期研修先の選定・調整等、課題の共有が有効に機能しており、補助期間終了後の自走化についても既に具体的な検討が開始されている点は、事業の継続・発展が期待できる。また、本プログラムの目標である持続的な社会の安全・安心に貢献する人材育成は抽象的であり、具体的目標の提示については一層の検討が必要であるが、海外相手大学間との共同プログラム運営委員会による共通科目群の整備により、参加学生の関心と専門性に応じた相互交換性のあるテイラーメイドの学修システムが明確な成果をあげており高く評価できる。学生への環境整備においては、派遣学生にはプログラム教員、指導教員等の間でSNSやメールによる連絡体制の確立がなされ、学生からも月例定期報告書による履修科目修学状況、研修達成状況の報告と自己評価の義務付けによる日常的な変化の可視化を図っている。また、受入学生には渡日前の面談や専門分野に応じた指導教員の配置、グローバル・コモンズ機構及び学生部による助言等、学生の立場に立った仕組みが確立されるなど、プログラム運営に関わる教職員の国際対応力向上を目的とした職員育成プログラムの充実も成果をあげている要因として評価できる。そして、本プログラム参加者のキャリアでは、商社・企業、在外公館職員や日本人学校講師として派遣経験を活かした進路を得たり、受入学生においても国費留学生として大学院進学や政府機関等への多様な進路を選択するなど、プログラム実施が有益であったことが窺える。この他にはウェブサイトの内容も充実しており、成果普及のニーズに応えている。今後は、本プログラムによって築かれた大学間連携と我が国の民間企業や南米日系企業・団体との関係を基盤とするインターンシップを通じた人材育成の推進を目指したコンソーシアム「筑波トランスパシフィック・プログラム」の資金計画を確立し、発展的なプログラム展開に期待する。

最後に、大学の世界展開力強化事業による補助期間は終了したが、引き続き質保証を伴う発展的なプログラム展開の実施によって、我が国の大学教育を牽引し、さらなるグローバル展開力の強化に寄与されることに期待する。